

戰艦大和の最期

吉田満著

戦艦大和の最期

戦艦大和の最期

昭和二十七年八月三十日 初版發行
昭和二十七年十一月三十日 六版發行

定 價 一六〇圓
地方定價 一六五圓

著 者 吉 田 満

發行者 小 林 茂
東京都中央区日本橋小舟町二ノ四

印刷者 松 浦 元
東京都新宿區改代町二ノ四

發行所 株式會社 創 元 社
東京都中央区日本橋小舟町二ノ四
(大阪市北区竈上町四五)

電話茅場町二〇六四・四〇八三・一七三四
振替東京一五六五・大阪五七〇九九

印刷 理想社・製本 鈴木
寛一落丁・風丁がありましたら取替へます

目次

戦艦大和の最期……………三

あとがき……………二九

跋文……………一三

吉川英治……………一四

小林秀雄……………一五

林房雄……………一六

河上徹太郎……………一七

三島由紀夫……………一八

戦艦大和の最期

碇 泊

昭和十九年末ヨリワレ少尉（副電測士）トシテ「大和」ニ勤務ス

二十年四月「大和」ハ吳軍港二十六番浮標（ブイ）ニ繫留中 港灣ノ最モ外延ニ位置スル大浮標ナリ
來ルベキ出撃ニ備ヘ、艦内各部ノ修理ト兵器（ロケット砲、電探等）増備ノタメ、急遽「ドック」ニ
入渠ノ豫定ナリ

二日早朝、突如艦内スピーカー「〇八一五（午前八時十五分）ヨリ出港準備作業ヲ行フ 出港ハ一〇
〇〇（十時）」

カ、ル不時ノ出港、前例ナシ

サレバ出撃カ

通信士ヨリ無電オヨビ信號ノ動キ激シ、トノ情報トドク

ワレヲ待ツモノ出撃ニホカナラズ 入渠準備ト稱シテノ碇泊モ、眞實ハ出動ノ偽裝ナラン

我ラ如何ニコノ時ヲ期シテ待チシカ

我ラ國家ノ干城トシテ大イナル榮譽ヲ與ヘラレクリ イツノ日カ、ソノ證シヲ立テザルベカラズ

我ラ前線ノ將士トシテ過分ノ衣食ヲ賜ハリタリ イツノ日カ、ソノ知遇ニ報イザルベカラズ
出撃コソソノ好機ナリ

マタ日夜ノ別ナキ猛訓練モコ、ニ終止シ、過勞ト不眠ノ累積ヨリ遂ニ我ヲ解放セン

時ニ米軍沖繩本島上陸後、僅カ二十日ナリ 作戰ハ恐ラク同方面ニ發動セン

風評シキリニ艦内ニ流ル

關門海峡ヲ通過、佐世保ニテ裝備補給、釜山ニテ給油ノ上南ニ向フ、ト

或ヒハ豊後水道ヨリ堂々直進セン、ト

作戰海面何處イコ 「大和」ニ從フ僚艦ハ何 艦隊編成如何

進ンデ決戦ヲ求メ、米艦隊ト雌雄ヲ決セン

ソノ囁キヲ壓シ、凜タル艦内スピーカー相次イデ令達ス

「各分隊、可燃物ヲ上甲板ニ出セ」

「各自ハ身ノ廻リ整理、終レバ私物ヲ吃水線下ニ格納セヨ」

「艦内警戒閉鎖トナセ」(火災オヨビ浸水豫防ノタメ、通路ノ「ハッチ」、各室ノ鐵扉鐵蓋ヲスベテ閉鎖ス)

「陸上ヘノ最終便(連絡艇)ハ〇八三〇(八時半)ニ出ス」

「艦内閉鎖狀況、直チニ各分隊長點檢」

命令號令亂レ飛ブ 流レ去ル時ノ速サ

陸上ヘノ最終便ノ短艇指揮ヲ指命サレ、第一内火艇ニヨリ第一波止場ニ向フ

薄雲全天ヲ蔽ヒ、海面煙リ、睡ルゴトキ軍港街常ト變ラズ 朝風ノタユタヒ 全速ニ直航スル艇

波止場ニ着キ用命ヲ達シテ、三度ビ未乗艦者ナキヤヲ確カム（出撃ニ際シ出港ニ遅ルレバ銃殺ノ定メナリ） モトヨリ未乗艦者、殘留者ナシ

コレガ俺ノ足ノ踏ム最後ノ、祖國ノ土カ、フト思フ

全速返路ヲ「大和」ニ向フ 微風快シ

外舷ヲ銀白一色ニ塗裝セル「大和」、四周ヲ壓シテ不動磐石ノ姿ナリ

「大和」ニ近ク碇泊セル「矢矧」（新鋭巡洋艦）ヨリ發光信號「ワレ出撃準備ヲ完了シ……」 生氣ヲ孕ンデ點滅ス

歸艦 身ノ廻リ整理ノ必要ナシ 直チニ出港準備作業ニ就ク

出 港

一〇〇〇（十時）「大和」出港 艦靜カニ前進ヲ始ム 出港ハ港内ニ本艦一艦ノミ

祕カニシテ悠容タル出陣

碇泊中ノ僚艦ヨリ、千萬ノ眼、無言ノ歡呼ヲコメテ我ヲニ注グ

ワレコソ彼ラガ興望ヲ擔フモノ 一兵マデモ誇ラカニ胸張ツテ甲板ニ整列ス
想ヘバ、巨艦往ツテ再ビ還ラザル最後ノ出港ナリキ

忽チ廣島灣ヲ過ギ水道ニカ、ル

各電探兵器ノ作戦良好ナルヲ確カメ分隊長ニ報告

平常ノ如ク航行時ノ態勢變化ヲ利シテ、對空、對艦訓練ヲ開始ス

艦内スピーカー「入港ハ一七〇〇（午後五時）頃ノ豫定、入港後直チニ總員集合ヲ行フ」

出撃命令下達ノ總員集合ナルベシ

訓練ノタメノ旋回、反轉ヲ繰返シツ、針路ハ周防灘ニ向フ

艦長、幕僚（艦隊參謀）ト作戦討議ヲタ、カハス 海圖臺上ニ赤表紙、分厚ナル書類アリ

背文字ハ太ク「天一號作戦關係綴」 「天」號作戦トハ「回生ノ天機」ノ意味ナランカ

海圖ハ沖繩本島周邊ノ詳細圖數枚ヲ重ネタリ 「コンパス」ヲ「大和」主砲ノ射程四十浬、十里（縮

尺目盛）ニ合ハセ、米軍上陸地點ヲ中心ニ海圖上ニ弧ヲ描ク 上陸地點砲撃時ノ、本艦ノ豫定針路ナ

ルベシ

「コンパス」ヲ握ル參謀ノ爪、カコモツテ白ク濁ル

押殺セル聲ノ應酬續ク 艦隊編成、針路、掩護機、發進時期等、難問題重疊セルゴトシ

待 機

薄暮、三田尻沖ニ假泊ス 近路ノ狹水道ヲ通過シテ直行セル驅逐艦、ワレニ先ンジテスデニ數隻入港シアリ 機密保持ノタメ夫々別個ニ出港シ來リテ本錨地ニ假泊シ、陸上トノ交通ヲ絶チタルマ、最後ノ出動命令ヲ待ツ

ソノ間、數日ノ休息ニ回天ノ英氣ヲ養ヒ、無我ノ心境ニ必死ノ闘魂ヲ磨カントス

總員集合 戰鬪略裝ノマ、總員上甲板ニ整列 管制下ノ暗夜、鎮マル三千名ノ呼氣

艦長、本作戰ノ目的——（米沖繩上陸軍ノ迎撃）、本艦ノ使命——（ソノ全キ根幹）ヲ述ベラレ、總員

ノ奮起ヲ切望セラル 副長「神風大和ヲシテ眞ニ神風タラシメヨ」

米機動部隊近接、明早朝來襲ノ公算大ナリトノ報アリ 我ラガ出足ヲ控カントスルカ

戰鬪服裝ノマ、眠ル 心逸ルモ熟睡ス

三日早朝、米軍來襲ノ報 配置ニ就ク

急速出港、第一警戒航行序列ニ散開ス（各艦ノ位置ヲ哨戒及ビ防禦ニ適スル如ク散開シテ航行ス

第一序列ハ防空、第二ハ砲戰對勢ナリ）

不時ノ來襲ニ即應スベク内燃機關ヲ暖メテ待機ス（通常ノ冷却狀態ヨリ「スクリュウ」ノ作動マデニ

ハ二十四時間ヲ要ス）

潮ノマニマニ漂泊

出動ハ米機動部隊ノ避退後ナルベシ 焦ルベカラズ

午前、B 29 一機直上ヲ通過、高空ヨリ盲爆ヲ行フ 投彈中型一箇 ワレニ損害ナシ

サレド寫眞偵察ヲ行ヘルカ本艦隊ノ動向スデニ蔽ヒ難キカ

午後、ラヂオ情報頻リニ入ル 本土ノ各地、熾烈ナル空襲ヲ受ケツ、アリト

「シバラク待テ」 心ニ叫ビテ止マズ 我ラガ出撃奏功セバ、銃後ノ慘禍ヲ些カナリトモ輕減シ得ベキモノヲ

日ノ落ツルヲ待チ、昨夜投錨セシ錨地ニ再ビ假泊ス

カ、ル非常ノ時、數日前兵學校ヲ卒業セシ新候補生五十餘名、大發（木造艇）ヲ横附ケテ乘艦シキタル

「大和」乗組ノ光榮ノ故カ、紅顔、夜目ニモ鮮ヤカナリ 數組ニ分レ直チニ艦内見學ヲ始ム

艦内ニ清新ノ氣香ル 彼ラガ眞ニ戰力トナルハイツノ日カ

通信科所屬ノ敵信班、米機間ノ緊急信號ヲ傍受シ、即刻翻譯シテ艦橋ニ報告シキタル

「米機動部隊ハ明日一日各地ヲ空襲ノ上、東方ニ避退セン」トノ情報ヲ確認

避退ニ追尾シテノワガ出動カ

出撃迫ル 夜食ウマシ

通信士中谷少尉「ハンモック」ニ俯シ、聲ヲ忍ンデ嗚咽ス 肩ヲ揺スレバ一葉ノ紙片ヲ差出ス（彼、

「キヤリフォルニヤ」出身ノ二世ナリ 慶應大學ニ遊學中、學徒兵トシテ召サレタルモ、第二人ハ米陸軍ノ下士官トシテ目下歐洲戰線ニ活躍中トイフ 醇朴ノ好青年ニシテ、勤務精勵、特ニ米軍緊急信

號ノ翻譯ハ彼ガ獨擅場ナリ サレド彼ガ二世出身ノ故ヲ以テ、少壯ノ現役士官ヨリ白眼視サレ、衆人環視ノウチニ罵倒サレシコトモ一再ナラズ 深夜、當直巡回中、甲板上ニ佇ム人影ヲ見シハカ、ル折ナリ)

一葉ノ便箋ニタド／＼シキ文字ニテ誌ス 「オ元氣デスカ 私クチモ元氣デ過シテイマス クダ職務ニベストヲ盡シテ下サイ ソシテ、一シヨニ、平和ノ日ヲ祈リマシヨウ」

待望ノ、母上ノ手紙ナルベシ 家族ヨリノ便リヲ手ニシバ／＼欣喜雀躍スル戰友ノウチニ、クダ獨リカツテ遂ニコノ歡ビヲ知ラザリシ彼 故郷ヲ敵國ニ持チタル者ノ不運トシテ諦メ居タル彼クダ中立國「スイス」ヲ通ジテ僅カニ通信ノ途殘サレタルモ、最後ニ、死ノ出聲ノ寸前ニ、コノ機會ノ到來シタルカ

字數ノ制限ノ故カ、文面アマリニ簡潔アマリニ直截

「一シヨニ、平和ノ日ヲ祈リマシヨウ」 萬感籠メタルコノ一句ハ、今シモ米語ノ暗號解讀ヨリ解放サレシバカリノ彼ガ肺腑ヲ、完膚ナキマデニ貫キタルベシ 母上ガ心遣リノ、痛キマデニ眞實ナルヨワレ言葉モナク「ハンモック」ニ上ル

四日早朝、米機來襲ノ報、配置ニ就ク

午前午後、前日ト同様滿ヲ持シテ漂泊警戒ス

驅逐艦「響」漂泊中、浮游セル機雷ニ觸レ水煙ヲ上グ 被害ハ比較的輕微ナルモ、汽罐ニ損傷ヲ受ケ

航行不能ニ陥ル 止ムナク僚艦「初霜」ノ曳航ニヨリ、吳ニ回航ト決定
遠ザカル艦影 見送ル殘存艦ノ甲板上ニ、美望ノ眸、悔恨ノ嘆息

一五一五（三時十五分）ヨリ一九一五（七時十五分）マデ副直將校ニ立ツ 警戒中ノタメ通常ノ舷門
勤務ニ非ズ、艦橋勤務ナリ

艦内ノ綱紀萬般ヲ掌握スル副直將校 乗艦當初、弱冠、シカモ學徒出身士官ノコノ身ニ、四時間當直ノ
勤務ノ如何ニ苛烈ナリシカ 一瞬ノ隙ナク艦ノ四周ヲ警戒シ、碇泊艦ノ動向ニ留意シ、更ニ艦内日課
ヲ計畫、實施、點檢セザルベカラズ 副直將校ハ常時駢足ニシテ歩行ヲ許サレズ

艦長、士氣振作ノ方策ニ關シ所見ヲ述ベラル 「明日ヨリ警戒配備ノマ、綜合訓練及ビ體育別課ヲ
行ハン」ト

吳出港以來、連日ノ緊急配備ノタメ、傳統ノ猛訓練ハ中絶ノ止ム無キニアリ

二日間ノ休養ニ兵員ノ體力ヤ、挽回セルモ、ナホ積日ノ過勞ヲ挽回スルニ至ラズ

サレド氣力ノ弛緩ヲコソ戒ムベシ 訓練再開ハ士氣振興ノ妙策ナラン

米機動部隊ワガ出動ヲ牽制セバ、ワレマタ最善ヲ盡シテコレニ對セン

夕食後、「矢矧」ヨリ第二水雷戰隊司令官來艦、「大和」坐乗ノ第二艦隊司令長官ト要談サル 作戰細

目ノ檢討ナラン

ノチ明ラカニサレタルモ、九州鹿屋基地ニアル豐田聯合艦隊司令長官ヨリ逐一令達サレツ、アル「天號」作戰ニ對シ、第二艦隊長官伊藤中將ハ、當初ヨリ強硬ナル反對ヲ表明シ來レルモノノ如シ

反對論據ノ第一ハ、ワガ空軍掩護機ノ皆無（鹿屋ヨリノ作戰命令ニヨレバ一機ノ友軍機ナシ）

第二、ワガ海上兵力ノ劣勢（ワガ方ハ驅逐艦ハ八含ム十隻、敵ハ少ク共數十隻ヲ下ラズ）

第三、發進時期ノ遲延（下命ハ米機動部隊避退ノ半日後ナリ　コレヲ半日繰上ゲ避退軍ニ全ク肩接シテ進攻スルヲ可トス）

少クトモ發進時期ノ最終的決定ハ現地指揮官ニ一任スベキガ當然ナリト、伊藤長官ハ切齒扼腕セリトイフ

艦内極メテ平穩ナリ

通信參謀ヨリ、艦隊各艦宛書類送附ノ短艇指揮ヲ下命サル　暗號關係緊急書類ナルベシ

艦橋ニ上レバ、星ナキ暗夜、遙カノ陸岸ニ本日ノ空襲ニヨリ炎上中ラシキ微光ニ點ヲ認ム

二一〇〇（九時）、用命ノ完全ナル達成ヲ期シテ、各艦ノ假泊位置、風向風速、潮流、海圖ヲ確カメ、手帳ニ誌シテ舷門ニ急グ

豫想所要時間二時間半　使用艇ハ馴染ミノ一號大發（木造艇）　艇長ハ手練ノ相本兵曹

一面漆ヲ流シタルゴトキ背景ノウチニ艦影ヲ捉ヘ、マサグリツ、舷門ニ近附ク　マサニ絶好ノ夜間短

艇達着訓練トイフベキカ

乗艦當初、連日朝食前ノ一時間ヲ、黎明達着訓練ニ捧ゲタルヲ想フ スベテ今日ニ備ヘタリ
艇長オヨビ艇員二名、終始默々トシテ着艦、離艦作業ニ従フ

僚艦九隻、暗黒ノ洋上ニ坐シテ動カズ ソコニ今ツ、シミ眠ル、五千ノ將兵

散開シテ假泊セル全艦ヲ一巡、「大和」ニ急グ フト水面ニ、薄緑ニ妖シク映ユルモノ

艇尾波ニ漂フ夜光蟲ナリ 燐光ノ潮ウシホノ如シ

歸艦、任務完了ヲ通信參謀ニ報告 二三三五（十一時三十五分）

艦橋ニ上レバスデニ一點ノ微光ヲ認メズ サキニ炎上中ノ陸岸モ鎮火シタルベシ

寢室ニテ電測訓練記録ヲ整理 梁ニワタセル「ハンモック」ニ殆イッンド蔽ハレタル机ニ、匍フゴトク向フ

終ツテ瞑目スルコトシバシ

春暖遠カラズ ワガ迎ヘンハ何處イッノ春ナルカ

「ハンモック」ニ入り本ヲヒラク

平常ハ訓練ニ次グ訓練ノタメ、讀書ノ餘暇ハ皆無ナルモ、出撃セバ多少ノ閑暇アラント期待シテ、ソ
ノ直前艦底圖書庫ヨリヤウヤクニ探シ來レル一冊、哲人「スピノザ」ガ傳記ナリ 明日ヨリ訓練再開
セバマタ寸暇ヲモ奪ハレン 僅カニ數頁ヲ讀ミタルノミナレバ、突入マデニ讀了ノ見込ナシ ソレモ
マタヨカラント思ヒツ、讀ミ耽ル 柔ラカキ小説體ノ行文、蜜ノゴトク心ヲ包ム

入隊後ノ一ヶ月、ホトンド連夜、本屋ヲサ迷ヒ血マナコニ背文字ヲ追ヒ求メ居ル惡夢ニ惱ミシヲ想フ